

平成21年度東北森林管理局インターンシップを受け入れ

8月5日から11日まで、平成21年度東北森林管理局インターンシップを受け入れました。この制度は、実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として実施しているものです。今年は、山形大学、日本大学の3名の学生が、ふれあいセンターが行っている森林生態系保護地域の保全管理や自然再生・森林環境教育等の業務について実習しました。

若いエネルギーに接し、職員も若返った一週間でした。3名の実習後のレポートをご紹介します。



前列左から坂尾さん、佐藤君、塚本君

実習内容

月 日	内 容
8月5日(水)	オリエンテーション、局からセンターに移動
8月6日(木)	ふれあいセンターの事業概要説明等 高館山・庄内海岸林巡視活動
8月7日(金)	モニタリング調査(センサーカメラ設置) 室内業務
8月8日(土)	土湯の森自然再生活動実践
8月9日(日)	朝日山地巡視活動(古寺鉱泉～小朝日岳)
8月10日(月)	緑の回廊巡視(鳥海山) モニタリング調査(センサーカメラ回収・解析)
8月11日(火)	室内業務・オリエンテーション

ふれあいセンターでの

インターンシップを振り返って

山形大学院農学研究科 坂尾民恵

私が朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターでのインターンシップを希望した理由は、二つあります。まず、一つ目は、環境保全に係わる仕事に興味があったからです。ある地域の自然を保全しようというときは、自然保護団体や地元住民の方々の協力が欠かせないと思います。ふれあいセンターでの仕事を体験することで、地元の皆さんとの係わり方を学びたいと考えました。二つ目は、私は今年庄内に住んで4年目になりますが、庄内の森林や、その森林を保全する為にどのような活動がされているかをほとんど知りませんでした。今回の実習で庄内での保全活動について学びたいと思ったのです。



一週間の実習を通して私は、環境を保全するためには、野生の動植物に対して働きかける事と同様に、地

域住民の方々に協力して頂けるように働きかける事も大切だということを学びました。特に西荒瀬保育園の「チョッキン草刈隊」や戸沢村の「土湯の森づくり」など子ども達を主役とした活動をすることで、幼い頃から環境保全への意識を高めることが、将来の環境保全で重要な役割を果たすということが印象に残りました。そして、このようなイベントに参加する方々が活動をしやすいための準備や、イベントの合間の植栽した稚樹の手入れなど、見えない所での職員の皆さんの働きが活動を支えているということも知ることができました。

短い間でしたが、仕事として環境保全に係わるということを学ぶことが出来、とても収穫の多い実習となりました。



インターン実習

日本大学 生物資源科学部 佐藤 剛

第一回の活動では庄内海岸へ海岸林の観察に行った。私が普段利用している湘南海岸林に比べクロマツ一本一本が大きく、またその海岸林ができるまで長い歴史があるという事が分かった。

第二回の活動では緑の回廊形成のため旧最上川スキー場まで行った。現地では更新が進んでいる部分とそうでない部分がはっきり分かれていて、その補充にあたった。

第3回の活動では小朝日岳で登山パトロールを行った。本来は大朝日岳まで行く予定だったが、天候状況が悪く断念する事になった。しかし、これでまた来年もこの庄内に来る予定ができた。

このインターン実習では、この庄内の森林について知ることができた。一番印象に残ったのは、ブナハムシによるブナの葉の変色についてだった。ブナ林の山を遠くから見ると夏なのに秋の紅葉のようにオレンジに染まっていて不思議な感じがした。しかし、この状態が広域の山域に広がっているのを見ると、今後の状況が心配になった。

またこの実習中、公務員の仕事とはどういうものかを少しだけ見ることが出来たと思う。地域の人も含め様々な人の意見を取り入れていかなければならないこの仕事はただ「森林が好きだ」では勤まらない、大変な仕事だと思った。また、ここでの経験を自分の仕事を決める時に生かしたいと思った。



ふれあいセンターでの5日間

日本大学 生物資源科学部 塚本 智也

今回、インターンシップという形で森林環境保全ふれあいセンターのみなさんにいろいろな場所へ連れて行って頂き、いい思い出がたくさんでき、とても有意義なインターンシップになったと思います。

初日は酒田市周辺のクロマツ林の見学に行ってきました。今では立派なクロマツ林が成立していますが、ここまで育つには先人たちの苦労があってこそこのクロマツ林なのだと知りました。

スキー場跡地を緑に戻すための整備も行いました。今はまだ林と呼べる段階ではないのですが、月日経ち、周りとは変わらないブナ林になることを願っています。

朝日連峰へパトロールにもでかけました。生憎の天気のため、視界は良くなかったのですが、なんとか小朝日岳までは登ることができました。ここではブナの葉に付き、葉を茶色く変色させる原因であるウエツキブナハムシや、とても素早く飛ぶハリオアマツバメを見ることができ、貴重な体験になったとおもいます。紅葉がきれいだということなので、秋にまた登ってみたいと思いました。



最後に、所長をはじめとする森林環境保全ふれあいセンターの職員の皆さんのおかげでこのインターンシップが充実したものになりました。今回の経験を大学生活にいかしていきたいと思います。短い期間ではありましたが、本当にありがとうございました。

